



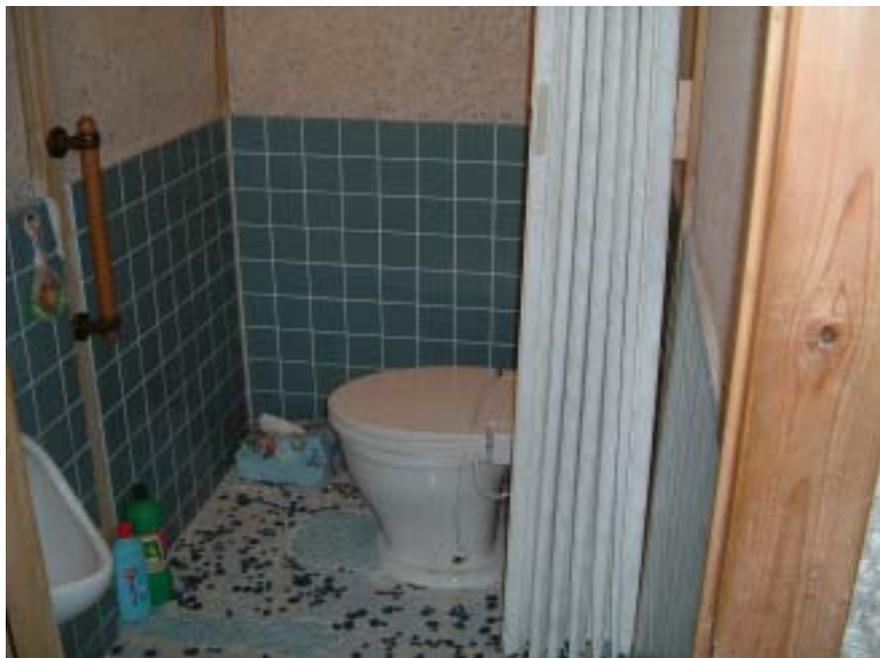
排水設備工事

今回の現場は公共下水道がまだ来ていない地区に浄化槽が基から有る部分に接続する工事です。

外部に汲取り便層が有るタイプです。壁はこのままに残します。

床タイル・下地コンクリート&土の掘削にて配管工事の準備をします。

但し小便器&手洗いの排水も考えなければなりません。



手前に小便器が有りその手前に手洗い器が有ります。

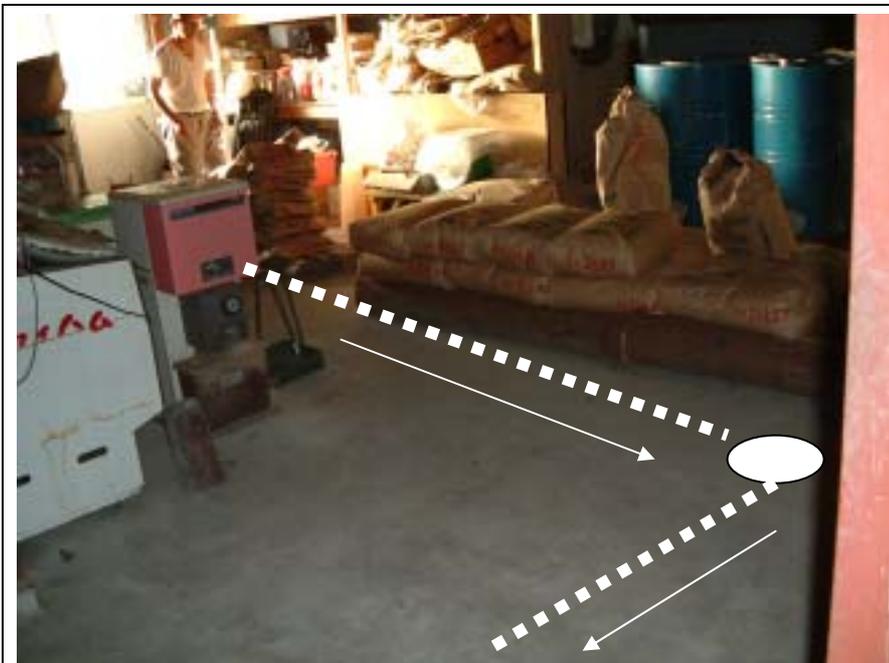


外部の便層の様子です。

臭突器が有り、便層の部分が確認されます。

便層は汲取りを事前に行って戴きます。

施工時は便層を上部のみを切断し撤去後に便層の下部に水抜き穴を開けます。



小屋の内部を通る事に成ります。

経路は点線の様に考えての事になります。

丸いのは中間柵です。
コーナーを用います。



更に小屋から現状の浄化槽への
接続経路です。



既設の土間コンクリートをカッターを
入れて切断を行った後にハツリ機
にてハツリ取ります。



アスファルト&コンクリートの
カッター工事状況です。

厚みが厚い場合とかは下の写真の
様な機械を使用します。

薄いとか又埋設物が他に地中に有る
場合には手での作業に成ります。



アスファルトカッター・コンクリート
カッター 70cm まで施工可能です。



マーカーにて目印をし、正確に
切断を行います。



コーナー部分です。



便層の廻りです。



狭い場所が当然の排水設備工事
ですから、超ミニの掘削機が必要
に成ります。

間口が 800mm 有れば何処でも通
過できる優れものです。

深さは 1300mm まで達する事が
出来ます。



削岩機にてハツリを行い、それらを掘削機にて掘り起こして行きます。

削岩機を使うにも地中に埋設物が無い事を確認をして行います。

ガス管・水道管・電気配線管等危険にも繋がりますから確実に行います。



ごらんの様に埋設物が混乱しています。



危ない部分です。

水道管が有ります。



勾配は2%程度に成りませんが止む無く1.5%に成る場合も有ります。

土被りが浅く配水管の廻りは真砂土にて埋めましたが表層部分は最終にはコンクリートにて打設をし無ければ成りません故碎石にて固める事に成ります。



便所内部でもタイル等のカッターそしてハツリを行います。

小便器の位置です。

手前で見えているのが手洗い器です。



既設の手洗い器&土間排水の排水管が見えて来ました。



既存の浄化槽への接続を行うに付き、現状の流入口の様子を伺います。

浄化槽は単独浄化槽でした。
建物の大きさと浄化槽の使用する大きさが決まります。

今回は便所のみを繋ぎ込みで且つ建物の大きさからしても間に合う事から2箇所の便所からの流入と成ります。

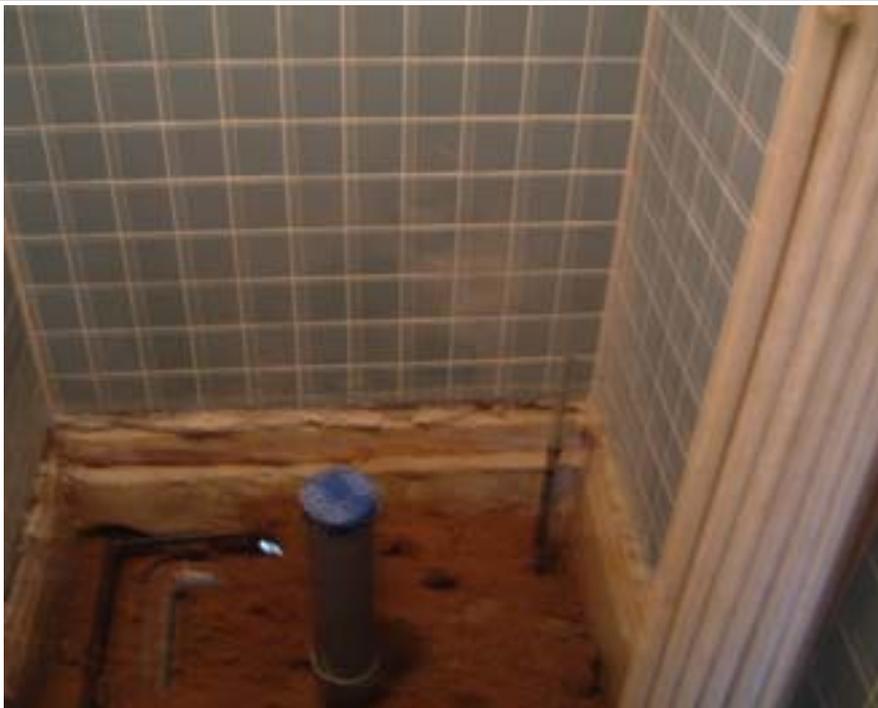


内部での配管作業は粗修了です。

土も基に殆ど戻りました。

コンクリート下地の砕石を入れて固めてからコンクリートの打設を行います。

乾かしてからタイルを貼り仕上げて行きます。



給水工事も行いますが既設の給水管を今回は一部利用しています。



水洗便器は暖房なの付属された便器を使用する場合には電気が必要に成ります。

尚、換気扇なども平行して考慮します。



便層有った部分です。
開始柵が設置されます。

最後の浄化槽の流入口の高さが高く余り勾配を得る事が出来ない事も有り、最初の柵の高さを極力と上げて置きます。



今回に於いてはレベル差が無い事から小屋の床が高い分を利用して居ります。

床が（土間）高いと排水管などを埋める事が出来るからです。



浄化槽の流入口付近です。

矢印の様な経路です。

赤色が既設経路で白色が今回の経路に成ります。



写真の様に管の周りは砂にて埋設して居ります。

排水管が小石等の混入に因り外部からの力が加わった場合に破壊される事を防ぐ事からに成ります。

見えている碎石は配管の下部が軟弱土で水分を含んでいた事から締め固める意味での使用と成りました。

これでコンクリートを流し込みコテにて仕上げて終了に成ります。

他に便器の据付・給水工事接続ですとか他の器具など取り付けて完了と成ります。